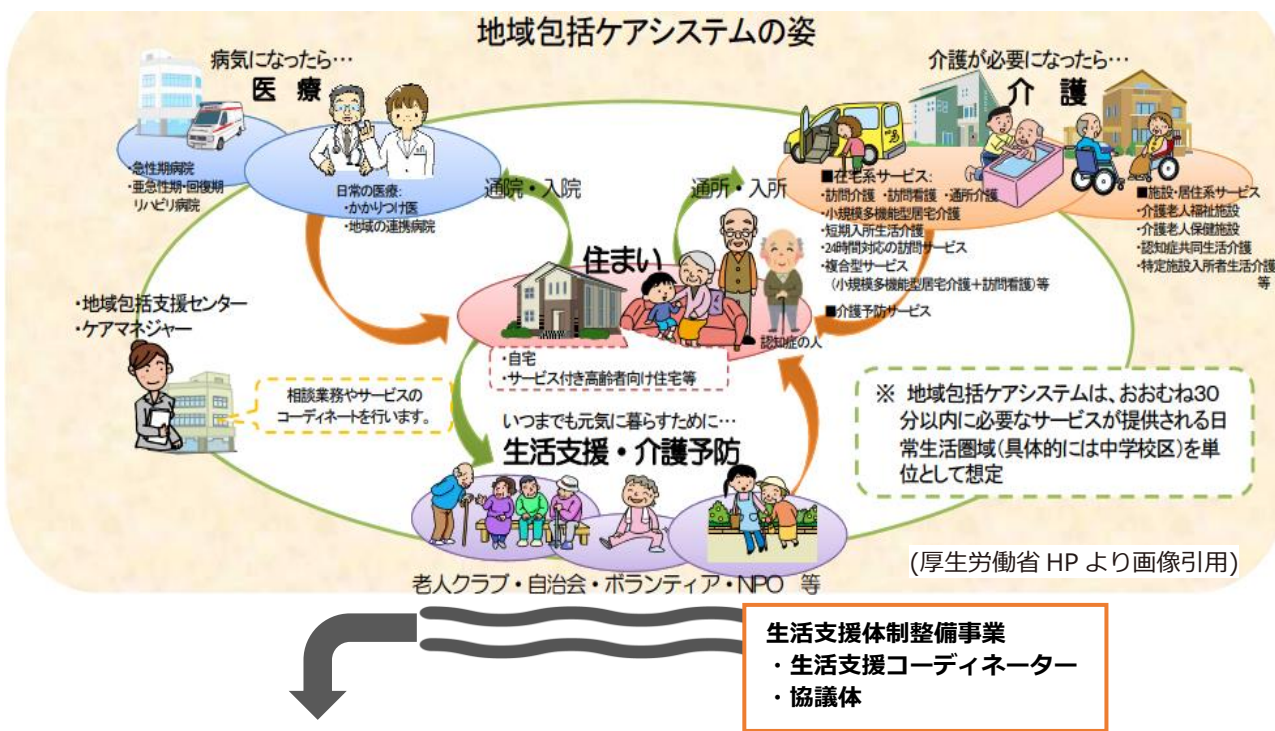


# 生活支援体制整備事業と 生活支援コーディネーターと協議体

## ■地域包括ケアシステムと生活支援体制整備事業

「地域包括ケアシステム」とは、厚生労働省が推進する『医療・介護・予防・住まい・生活支援』が、ひとまとめに確保される体制で、そのうちの「生活支援・介護予防」を充実していくため生活支援体制整備事業があります。



小山市では、特に「介護予防・生活支援」の分野が重要であると考え、地域の住民主体での積極的な取り組みを行っています。

生活支援体制整備事業では、高齢者の見守り・支え合いのしくみづくりの充実・促進するため、生活支援コーディネーターの配置と協議体の設置を行い、地域のネットワークの構築・推進を図っています。

**お問合せ** 小山市社会福祉協議会 地域福祉係  
〒323-0023 小山市中央町 2-2-21  
TEL:0285-23-1887

## ■生活支援体制整備事業とは？

地域の誰もが安心して暮らせるよう、「地域での支え合いの仕組み」を構築することが生活支援体制整備事業です。

介護が必要になってからの支援だけでなく、  
日頃から、お互いを気にかけて、見守り合い、  
支え合うことが大切であり、それらを育むための  
積極的な取り組みを行うために、  
“生活支援体制整備事業”があります。

※小山市すこやか長寿プラン2021 から一部引用



そして、「高齢者を含む、地域に住む人々の生活支援をはじめとした、  
さまざまな“場(機会)”や“仕組み”を、地域住民みんなで創り出していく」ことを  
目標としています。

## 生活支援コーディネーター（SC）の存在と役割

そのためには、地域特性をよく知り、公共や民間のサービスだけでなく、自治体や住民が行っている小さな活動を把握することが重要となってきます。

小山市には、社会福祉協議会に  
第1層生活支援コーディネーター、  
6地域の高齢者サポートセンターに、  
2層生活支援コーディネーターが配置されています。

※6地域とは、行政区域の小山総合（市内中心部の北部）、  
小山（市内中心部の南部）、大谷、間々田、美田、桑・絹です。



生活支援コーディネーターは、高齢者が介護保険制度にとらわれずに、  
適切なサービスや住民活動などを選択・活用できて、住み慣れた地域で、  
いつまでも役割や生きがいをもって、自分らしい生活を送れるような地域づくりを  
コーディネートしていくことを任務として活動しています。

※生活支援コーディネーターをSCと通称で呼ぶこともあります。

## ■小山市の生活支援コーディネーター(SC)と第1層協議体について

1層SC (小山市社会福祉協議会所属)・・・市全体の課題解決や活動支援を行っています



### 第1層協議体委員について

役割…第1層生活支援コーディネーターと共に市内全域の見守り・支え合いの地域づくりの課題を抽出し、課題解決の方策を検討します。また、会議および学習会を通じて、ネットワークの構築・推進を図っていきます。

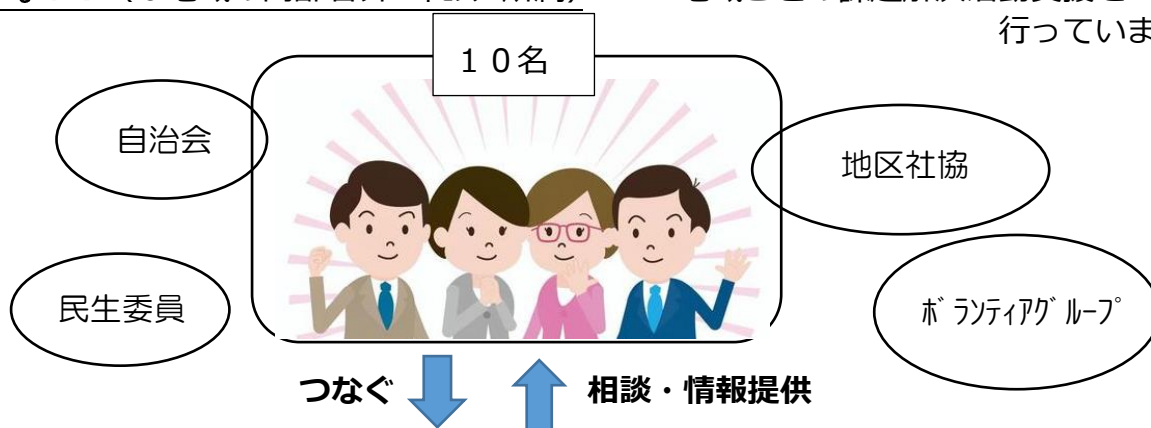
### 第1層協議体アドバイザーチームについて

役割…第1層協議体の協議内容について報告を受け、必要なアドバイスを行います。第1層協議体からの相談内容等への支援に努めるとともに必要を認める時は、高齢生きがい課を通じ市への報告等を行います。

支援 ↓ ↑ 相談・連携

アイディアの実現化例…  
 ・地域のお買い物支援  
 ・病院への送迎支援  
 ・高齢者向けサロンの開設

2層SC (6地域の高齢者サロ-ン-センター所属)・・・地域ごとの課題解決活動支援を行っています



主に高齢者の方向けに、地域の困りごとを調査して解決するための活動をすすめています



重いものが多くてかたづけが難しい…



近くにお買い物できる場所がない…



## 小山市にはどんな協議体があるの？



小山市社会福祉協議会では、「第1層」の協議体として、小山市社会福祉協議会に所属する生活支援コーディネーターが中心になり、福祉事業所、老人クラブ、ケアマネ、ボランティア団体、中間支援団体、看護専門学校、地元の大学のまちづくりサークル団体、シルバー大学校同窓会の代表など、様々な分野から委員さんを選出し、話し合いの場を設けています。

## 協議体って何？

自分たちが住む地域のことを、地域のみなさんで

「あったらいい支え合いの仕組みは何か」

「どうしたら、もっと良くなるか」

「こんな地域だったら、いいね」

「どうやって、実現していこうか」

…といったことを、定期的に、生活支援コーディネーターと地域住民や地域の力だけではできないことを補完する役割の人（別な視点をもった方々など）も含めた人で構成し、ささえあいの仕組みづくりについて取り組んでいく場を、『協議体』といいます。



「すでに行われている支え合い活動や仲間などの再確認を行い、

どう活用していくか？」

「続けるためには、どういう工夫が必要か？」

…などの検討やフィールドづくりといった既存分野の拡大も協議体の大事な役割です。そして、生活支援コーディネーターが、協議体の話し合いの場で話題となった地域の問題や、困りごとなどのニーズを把握して、「住民の思い」を形にするため、ヒトやモノなどの情報を提供し、つなぐ役割を担います。

## 第1層協議体から生まれた事業

### ・お買い物支援



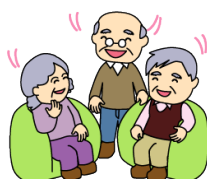
自治会などに協力してもらい、お買い物のサポートをするボランティアさんと、福祉事業所の送迎者及びドライバーの協力を得てスーパーでお買い物をしながら地域の交流を増やすとともに自然な形の見守りにつなげる支援。現在は2層のSCに引継ぎ、市内6か所で活動中。

### ・外出を支え隊



65歳以上の高齢者と身体障がい者を対象に、ボランティアさんが、自家用車で通院時の送迎サポートを行う事業。マッチングを1層SCが行っている。

### ・定期型・常設型サロン



定期型サロン＝週に1回（毎週水曜日午前中）福祉事業所で開催し、体操や交流を行っている。

常設型サロン＝木曜日以外は毎日開設し、自由に利用してもらおう地域の居場所型サロン。ボランティアさんが運営し、ミニ講座なども開催している。